

事業実施主体等取組評価報告書(経営力の強化を目的とした整備事業)

都道府県名	青森県	報告年度	平成20年度
-------	-----	------	--------

事業実施年度	市町村名	地区名	整備事業の取組内容	成果目標	目標値		事業実施後の状況			達成率	事業費 (千円)	負担区分(千円)				点検結果及び講じようとする措置又は 点検評価及び講じようとする指導
					計画時	目標年	1年度目	2年度目	3年度目			交付金	都道府県費	市町村費	その他	
18	弘前市	農業生産法人 (有) ANEKKO	アグリチャレン ジャー支援	所得の向上(目標所得 600万円 水準達成者数)	1人	2人	1人	1人	2人	100.0%	151,624	72,202	0	0	79,422	直売所における野菜等の農産物売上額が増加することで、農業者の所得向上が図られ、当該年度目標を達成した。 依然として冬場の集客対策が課題となっており、当該年度の売上げ目標を達成できなかった。今後は、冬期間の販売対策として、これまで手薄だったりんごの販売を対面販売として強化することやレストランの新メニューづくり、イベントの開催を行い目標達成に向けた取組を強化していく。 常時雇用はすでに目標年度の目標を達成している。しかし、臨時雇用は冬場の集客数や農産物の売上額が少ないことから、年間延べ人数及び実人数換算とも目標に達しなかった。このため、今後は冬期間の販売のメインとなる「りんご」の対面販売や各種イベントの開催等の取組を強化することとし、臨時雇用を増やしていくこととしている。
				農畜産物等の売上額の増加(農畜産物等の売上額)	4,382千円	187,275千円	0千円	115,057千円	144,499千円	76.6%						
				雇用の拡大 ・常時雇用者数 ・臨時雇用者数(年間延べ人数) ・臨時雇用者数(実人数換算)	0人 0人 0人	5人 2,160人 9.3人	0人 0人 0人	5人 2,206人 9.4人	5人 1,449人 6.2人	100.0% 67.0% 66.6%						
18	八戸市(事業主体所在地) 五戸町(野菜加工施設) 新郷村(長芋焼酎製造施設)	農業生産法人 (有)泉農場	アグリチャレン ジャー支援	所得の向上(目標所得 380~470万円 水準達成者数)	0人	3人	0人	0人	0人	0.0%	164,325	78,250	0	0	86,075	加工野菜は販路拡大の取組みが遅れたことや焼酎は品質やPR不足により、売上額の増加が目標の半分にとどまり、所得目標に達した農業者はいなかった。今後は、加工野菜は現状の福祉施設だけでなく市場への出荷を拡大し、焼酎については、品質の安定やPRに努めて販売額の増加を図る。 野菜の加工は地元の福祉施設への食材提供については伸びているが、市場出荷等の販路拡大が課題である。また、ながいも焼酎は品質向上とPR・販路拡大が急務となっており、全体では目標の半分の売上げにとどまった。今後は、市場動向を見極めながらの市場出荷やこれまでのインターネットや道の駅・農産物直売所の販売以外にも、酒卸業者を活用した飲食店等への売り込みを力を入れる。 雇用確保の観点から常時雇用を増やしたため、常時雇用人数は目標を達成している。ただ、当初の売上げ目標が達成できていないことから、臨時雇用人数は目標に達していない。今後は売上げ拡大のために、新たな販売先の開拓や品質向上やPRに努め、臨時雇用を増やしていく。
				農畜産物等の売上額の増加(農畜産物等の売上額)	6,480千円	111,600千円	9,607千円	22,250千円	60,089千円	50.9%						
				雇用の拡大 ・常時雇用者数 ・臨時雇用者数(年間延べ人数) ・臨時雇用者数(実人数換算)	0人 807人 3人	3人 3,648人 16人	0人 1,016人 4.4人	5人 1,451人 6.2人	5人 2,796人 11.9人	166.6% 69.4% 70.0%						
18	青森県	県全域	農業研修教育・農業総合支援センター施設整備	就業率の向上	34.25%	46.00%	37.0%	41.6%	47.1%	109.3%	24,007	12,003	12,004	0	0	当該年度目標は達成している。今後も卒業後直に就農する者の増加に努めていく。

目標年度	平成20年度	第三者機関の開催年月日	平成21年8月4日	事業実施主体	農業生産法人(有) ANEKKO	整備施設等	総合交流拠点施設、市民農園
第三者機関によって審議した内容及び意見				第三者機関の意見を踏まえて都道府県が事業実施主体に対して指導した内容			
<p>・売上額が当初目的に達していないことに関して、景気の後退等の要因もあるが、近隣の直売施設を比較すると品揃えや価格、接客の仕方などに課題があるように思われる。近年、消費者が直売所に求めるものは、新鮮さと品揃いと安さもあるが、最も大きいのは「わくわく感」である。あの直売所に出かければ、いつも何か新たな発見や楽しいイベント等があるとどこそこにいる店員と話す楽しい気分になるとか等、ソフト面の質の向上が重要である。</p>				<p>・売上げを伸ばすために、直売所へのリピーターを増やすことが必要であることから、接客マナーの向上や商品の品揃え、価格等の見直し、各種PRやイベントの開催、また、集客力の落ちる冬場対策として、冬期間でも販売できる「りんご」の売り場面積拡大と販売強化をメインに実施することを指示した。 ・また、本施設が交流拠点施設であることから、地元の行事への参加や各種展示会、様々な学べる講座等の継続開催を行うことや市民農園のPR等による都市住民との交流も積極的に行うよう指導した。</p>			
目標年度	平成20年度	第三者機関の開催年月日	平成21年8月4日	事業実施主体	農業生産法人(有)泉農場	整備施設等	農畜産物処理加工施設(野菜等一次加工施設、焼酎製造施設)
第三者機関によって審議した内容及び意見				第三者機関の意見を踏まえて都道府県が事業実施主体に対して指導した内容			
<p>・20年度から本格的に稼働したものの、売上げが当初の目標に達していない。この中で、野菜等加工施設は徐々に売上げを伸ばしているが、まだ十分ではないことから、引き続き、福祉施設だけではなく、市場出荷の拡大や量販店・小売店等への売り込みを行うことが必要である。また、焼酎製造施設の「ながいも焼酎」は品質面や知名度の不足しており、販売が極端に低く、目標売上げへの到達は厳しい状態であることから、知名度アップのためのPR等が必要である。</p>				<p>・今後は野菜等加工施設の加工野菜については、福祉施設関連への販売を行いながら、一層の販路拡大のために地元市場や量販店への売り込み強化を行うよう指導した。また、ながいも焼酎については、約半数は2~3年の熟成のために残していくこととなっていることから、最初は売上げが伸びない計画となっているが、それを差し引いても販売数量及び販売額が低いので、一層の品質の向上と知名度アップにより販売数量及び販売額の増加に努力するよう指導した。</p>			